

第5号の発刊によせて

生命健康科学研究所 所長 杉 山 達 夫

生命健康科学研究所は、2004年創立以来、“よりよく生きる”の実現に向けて、ヘルスサイエンス領域の安全・安心をモットーに、ライフサイエンスに立脚した新しい開発型科学技術の創成を目指しています。具体的には、生活習慣病や新型感染症など、現代の疾病と健康障害を対象にして、予防と治療および看護と介護のための新たな薬物、資材・機器科学技術、医療・看護技術ならびに関連する技術と教育システムの開発に向けた研究を推進しています。それは、社会のニーズに応えることでもあり、また、ヘルスサイエンス領域の学生教育にも資することを願っています。

今年度、当研究所の中心的な活動は、上記の主旨に基づき、生活環境から誘発される疾病の予防と予知法に関する戦略的研究の国内外の研究拠点に向けての萌芽研究を実施するとともに、本学の研究戦略の一環としてプロジェクト研究提案を行いました。その結果、平成20年9月、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『生活環境因子誘発性疾患の予知・予防に関する戦略的研究(代表者 生命健康科学部教授 鈴木康夫)』として、幸いにも採択され、独立した研究センター“ヘルスサイエンスヒルズ”(センター長 鈴木康夫)が新たに誕生いたしました。

当研究所では、研究活動の年度成果を、学内外に広く紹介するとともに、学生教育への一助とするために、解説的に紀要に掲載することにしております。本年度発刊の第5号には、投稿論文、当研究所で実施致しました萌芽研究の成果、および本学の生物機能開発研究所との共催による「第3回中部大学ライフサイエンスフォーラム」での総合研究大学院大学先導科学研究科教授蟻川謙太郎氏の”昆虫の視覚世界を探る:チョウと人間、目がいいのはどっちだろう”の講演内容を収録致しました。

なお、本紀要は今年度からウェブサイトによる公表を実施いたすことになりました。多くの方々にご一読賜わり、当研究所の活動にご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。